

復権へ向けて躍動する関西経済圏

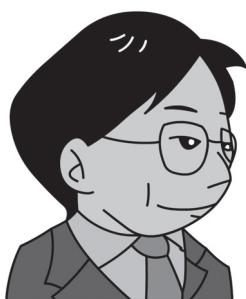


# 設立十周年を機に次のステージへ踏み出す

関西の企業風土に育まれて現在に至る



秋原光子社長



菅祥之専務

アウトソーシング業と日本で初めて会社登記した(株)オービット(本社・大阪市北区、社長・秋原光子氏)は、文字通りアウトソーシングのパイオニアであり、昨年設立十周年を無事に迎えた。

## オービット

同社は昨年六月、帝国ホテル大阪で設立十周年祝賀パーティーを開催。周年行事を同ホテルで開催するなど日常業務と同じくらいに社内行事にも力を注いでいる。それが社内の一体感を生み出し、社員のやる気を引き出しているのだろう。

「第一種電気通信事業をはじめさまざまな大手企業の業務を幅広くサポートしていますが、クライアント企業の一員として行動できるかどうかを第一に考えて取り組んでいます」

同社は単に業務を請け負う姿勢ではなく、クライアント企業と一緒にになってエンドユーザーにサービスを提供する考え方で事業を開いている。

「成果だけではなく、そこに至るプロセスをクライアント企業が見てくださつて、例えば今受けている仕事が合理化など先方の都合でなくなる場合も、契約の解除ではなく、現場に入っている当社社員のノウハウを活用したいと新しい配置先を考えてくださつたりします」

こうした信頼関係は一朝一夕に築けるものではなく、まし

てやひとつのクライアント企業から複数の業務を任されるなど、並大抵の努力では出来ない。だからこそ設立以来専任の営業マンを置かず、クライアント企業の紹介のみで次々と業務を受注し、業容を拡大してきたのだ。

## 成長期から成熟期へ

創業期から苦楽を共にしてきた秋原社長と菅専務は、当初から在籍している社員の成長を喜び、今では現場を任せているほどだ。

「創業の頃は全員が気を張つていろいろな方面に気配りできるようになつて成長しましたが、京都・神戸に拠点を置き、正社員約百五十名になり、創業期を経験していない社員が増えました。先輩諸氏の努力があつて今があり、クライアント企業からの信頼があるわけですから、常にわが社の歴史を振り返りながら、さらに努力を重ねていきます」

秋原社長と菅専務は総合商社のグループ会社が受託した業務に管理者として従事していた。だが、突然の関西からの撤退。全員が解雇されることに納得できず、事業の継続を決意。わずか一ヶ月後に同社を設立した。そのとき取引先であつた関西を代表する企業の

設立から十二年目となつた同社は、成長期から成熟期へ移行しつつある。年商10億円も見えており、全員の力で100億円企業に育てようという夢を掲げる一方、財務体質の強化にも取り組んでいく方針だ。



盛況だった設立10周年祝賀パーティー